(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-192520
(P2017-192520A)
(43)公開日　平成29年10月26日(2017.10.26)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A47C 7/46	(2006.01)	A47C	7/46	3B084

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 8 頁）

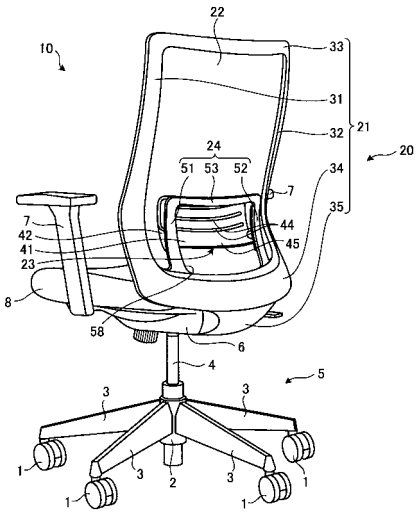
(21)出願番号　特願2016-83993(P2016-83993)
(22)出願日　平成28年4月19日(2016.4.19)

(71)出願人　000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸２丁目７番１８号
(74)代理人　110002147
特許業務法人酒井国際特許事務所
(72)発明者　井澤　晶一
神奈川県横浜市西区北幸二丁目７番１８号
株式会社岡村製作所内

Ｆターム(参考)　3B084 AA01　EC01　HA02　HA06

(54)【発明の名称】椅子の背凭れ

(57)【要約】
【課題】着座した状態でも、容易に腰部支持部材の高さを調整すること。
【解決手段】背枠２１と、背枠２１を覆うように設けた面材２２と、面材２２よりも後方側となる部位に設けた腰部支持部材２３とを備えた椅子１０の背凭れ２０において、腰部支持部材２３の後面を外部に露出させる開口５８を確保した状態で腰部支持部材２３を上下に移動可能に配設し、かつ腰部支持部材２３の後面下部において開口５８に臨む部位に操作部４５を設けた。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
背枠と、前記背枠を覆うように設けた面材と、前記面材よりも後方側となる部位に設けた腰部支持部材とを備えた椅子の背凭れにおいて、
前記腰部支持部材の後面を外部に露出させる開口を確保した状態で前記腰部支持部材を上下に移動可能に配設し、かつ前記腰部支持部材の後面下部において前記開口に臨む部位に操作部を設けたことを特徴とする椅子の背凭れ。
【請求項２】
前記背枠は、左右一対の側枠部と、前記一対の側枠部の下端部間を連結する下枠部とを有したものであり、
前記下枠部は、互いの間に隙間を確保した部位から上方に向けて延在した一対の支持アームと、前記一対の支持アームの上端部間を連結する支持アーム連結部とを有した支持部とを備え、
前記腰部支持部材は、前記下枠部、前記一対の支持アーム及び前記支持アーム連結部によって囲まれる開口に前記操作部が臨む状態で前記支持部に支持したことを特徴とする請求項１に記載の椅子の背凭れ。
【請求項３】
前記背枠は、左右一対の側枠部と、前記一対の側枠部の上端部間を連結する上枠部と、前記一対の側枠部の下端部間を連結する下枠部とを有したものであり、
前記腰部支持部材は、前記側枠部、前記上枠部及び前記下枠部によって囲まれる開口に前記操作部が臨む状態で、両端部を介して前記側枠部に支持したことを特徴とする請求項１に記載の椅子の背凭れ。
【請求項４】
前記操作部は、前記開口から前記支持部の後面よりも後方に突出するように設けたことを特徴とする請求項２又は請求項３に記載の椅子の背凭れ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、腰部支持部材を取り付けた椅子の背凭れに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
腰部支持部材を備えた椅子には、背凭れに対して腰部支持部材の高さを手動で調整できるものがある。即ち、背枠に対して腰部支持部材が上下に沿って移動可能に配設されているとともに、背枠の側面に操作部が設けられた椅子が提供されている。この種の椅子によれば、操作部を介して腰部支持部材を上下方向に移動させることで腰部支持部材を着座者の腰部に確実に当接させることが可能となる（たとえば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１４－８３１３０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかし、上述の椅子では、着座者が着座した状態のまま腰部支持部材を上下動させようとすると、肩及び肘を大きく上方に上げる姿勢をとらなければならず、体勢的に必ずしも好ましいとはいえない。
【０００５】
本発明は、上記に鑑みてなされたものであって、着座した状態でも、容易に腰部支持部材の高さを調整することのできる椅子の背凭れを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】

【０００６】
上述した課題を解決し、目的を達成するために、本発明に係る椅子の背凭れは、背枠と、前記背枠を覆うように設けた面材と、前記面材よりも後方側となる部位に設けた腰部支持部材とを備えた椅子の背凭れにおいて、前記腰部支持部材の後面を外部に露出させる開口を確保した状態で前記腰部支持部材を上下に移動可能に配設し、かつ前記腰部支持部材の後面下部において前記開口に臨む部位に操作部を設けたことを特徴とする。
【０００７】
また、本発明は、上述した椅子の背凭れにおいて、前記背枠は、左右一対の側枠部と、前記一対の側枠部の下端部間を連結する下枠部とを有したものであり、前記下枠部は、互いの間に隙間を確保した部位から上方に向けて延在した一対の支持アームと、前記一対の支持アームの上端部間を連結する支持アーム連結部とを有した支持部とを備え、前記腰部支持部材は、前記下枠部、前記一対の支持アーム及び前記支持アーム連結部によって囲まれる開口に前記操作部が臨む状態で前記支持部に支持したことを特徴とする。
【０００８】
また、本発明は、上述した椅子の背凭れにおいて、前記背枠は、左右一対の側枠部と、前記一対の側枠部の上端部間を連結する上枠部と、前記一対の側枠部の下端部間を連結する下枠部とを有したものであり、前記腰部支持部材は、前記側枠部、前記上枠部及び前記下枠部によって囲まれる開口に前記操作部が臨む状態で、両端部を介して前記側枠部に支持したことを特徴とする。
【０００９】
また、本発明は、上述した椅子の背凭れにおいて、前記操作部は、前記開口から前記支持部の後面よりも後方に突出するように設けたことを特徴とする。
【発明の効果】
【００１０】
本発明によれば、腰部支持部材の操作部が背凭れの中央部において下方部に配置されるため、着座した状態でも肩や肘を大きく上方に上げる姿勢をとることなく操作部を操作することができ、無理な体勢を強いることなく腰部支持部材を容易に調整することが可能となる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】図１は、本発明の実施の形態に係る椅子の斜視図である。
【図２】図２は、図１に示した椅子の側面図である。
【図３】図３は、図２に示した椅子のＣ－Ｃ線断面図である。
【図４】図４は、図１に示した椅子の要部拡大図である。
【図５】図５は、図１に示した椅子の要部拡大図である。
【図６】図６は、図１に示した椅子の動作の説明のための部分側面図である。
【図７】図７は、図１に示した椅子の動作の説明のための背面図である。
【図８】図８は、本発明の変形例に係る椅子の斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
以下に添付図面を参照して、本発明に係る椅子の背凭れの好適な実施の形態について詳細に説明する。図１は、本発明の実施の形態である背凭れを備えた椅子を示したものである。ここで例示する椅子１０は、オフィス等の室内で適用するもので、脚部５を備えている。脚部５は、脚体３及び脚柱４を備えている。脚体３は、上下方向に沿った円筒状を成す基部２の周面から放射状を成すように延在し、個々の先端部にキャスタ１を備えたものである。脚柱４は、基部２の中心孔に挿通した円柱状を成すもので、その上端部に背枠支持部６を支持している。背枠支持部６は、上面にクッション８を設けることによって椅子の着座部を構成するものである。背枠支持部６の両側下面には、左右一対の肘掛け７，７が取り付けてある。肘掛け７，７は、背枠支持部６の下面から両側に突出した後、上方に向けて突出したものである。上述した脚部５には、この背枠支持部６を介して背凭れ２０

が連結してある。

【００１３】

背凭れ２０は、図１～図３に示すように、背枠２１と、背枠２１を覆うように設けた面材２２と、面材２２よりも後方側となる部位に設けた腰部支持部材２３と、腰部支持部材２３を支持する支持部２４とを有している。

【００１４】

背枠２１は、左右一対の側枠部３１，３２と、上枠部３３と、下枠部３４と、連結部３５とを備えたもので、可撓性を有した合成樹脂により一体的に成形してある。側枠部３１，３２は、上下方向の中間部やや下方であって、着座者の腰部付近の高さと対応する部分が前方に向けて凸となるように折曲したものである。

【００１５】

上枠部３３は、一対の側枠部３１，３２の上端部間を連結するものであり、下枠部３４は、一対の側枠部３１，３２の下端部間を連結するものである。連結部３５は、下枠部３４の下部から下方に延在した後に前方に向け湾曲し、背枠支持部６の下面において前方に延在している。背凭れ２０は、この連結部３５の前方部分を介して背枠支持部６に連結してある。

【００１６】

面材２２は、シート状の部材であり、一対の側枠部３１，３２、上枠部３３及び下枠部３４とによって囲まれる枠内部を覆うように設けてある。

【００１７】

腰部支持部材２３は、図４及び図５に示すように、支持部本体４１と、支持部本体４１の左右両端部から後方側に突出する一対の摺動アーム４２，４３とを有したもので、可撓性を有した合成樹脂によって成形してある。支持部本体４１は、着座者の腰部に当接する部分であり、着座者の腰部に沿った湾曲形状を成している。この支持部本体４１には、左右方向に沿って複数のスリット４４，４４…が形成してある。支持部本体４１の幅は、着座者の腰部横幅と同程度の寸法であって、背枠２１における一対の側枠部３１，３２の相互間隔よりは小さく構成してある。支持部本体４１の下部には、操作部４５が設けてある。操作部４５は、支持部本体４１の下縁部を後方に向けて延長したもので、支持部本体４１の左右全幅に亘って形成してある。この操作部４５の延長端部は、支持部２４の後面よりも後方に突出している。

【００１８】

摺動アーム４２，４３は、突起部４６及び支え部４７を有している。突起部４６及び支え部４７は、操作部４５の左右両端部近傍に設けたもので、互いに対向するように内側に向けて突出している。

【００１９】

支持部２４は、一対の支持アーム５１，５２及び支持アーム連結部５３を有している。一対の支持アーム５１，５２は、下枠部３４の上面において腰部支持部材２３の両端部に対応する部分から互いの間に隙間を確保して上方に向けて突出したもので、腰部支持部材２３の幅と同じもしくはそれ以上となる幅を有するように設けてある。

【００２０】

一対の支持アーム５１，５２には、係合部５４，５４が上下に沿って配設してある。係合部５４，５４は、摺動アーム４２，４３の突起部４６及び支え部４７と係合するもので、摺動アーム４２，４３を介して腰部支持部材２３を上下動可能に支持している。

【００２１】

係合部５４，５４には、それぞれ凹部５６が複数形成してある。凹部５６は、それぞれ摺動アーム４２，４３の突起部４６が嵌合可能となるように構成したものである。係合部５４，５４に設けた凹部５６のいずれかに突起部４６を嵌合させることによって腰部支持部材２３の上下方向の位置決めを行うことができる。

【００２２】

支持アーム連結部５３は、一対の支持アーム５１，５２の上端部間を連結する部分であ

る。支持アーム連結部５３と一対の支持アーム５１，５２と下枠部３４とによって囲まれる部分に開口５８が構成される。腰部支持部材２３は、この開口５８を介して後面が外部に露出しており、支持部本体４１の操作部４５を操作することが可能である。

【００２３】

上記のように構成した背凭れ２０を有する椅子１０では、着座者が着座した状態で背凭れに荷重をかけると、図６中の二点鎖線で示すように、背枠２１が側枠部３１，３２の下方部分を支点として後向きに撓むことになる。しかし、連結部３５を設けた下枠部３４については、その位置がほとんど変化することはなく、下枠部３４に設けた支持部２４が側枠部３１，３２の撓みに追従することはない。従って、撓む側枠部３１，３２に対して、支持部２４に支持させた腰部支持部材２３は初期の位置から変位せず、腰部支持部材２３を着座者の腰部に好適に当接させることができるようになる。

【００２４】

また、着座者が上体をねじるような動きをした場合であっても、腰部支持部材２３が左右一対の支持アーム５１，５２に支持してあるので、腰部支持部材２３の移動が制限されることになり、腰部支持部材２３を着座者の腰部に好適に当接させることができる。しかも、左右一対の支持アーム５１，５２は互いに間隔をあけて配設したものであり、さらに支持部本体４１に複数のスリット４４，４４…を設けるようにしているため、着座者の腰部が当接した際に、一対の支持アーム５１，５２の間で腰部支持部材２３が腰部の形状に倣って撓むことになり、着座者の腰部を柔らかく支持することができる。

【００２５】

この腰部支持部材２３の高さは、着座者が着座したままでも、操作部４５に手をかけて上下に移動させれば、摺動アーム４２，４３が係合部５４，５４を摺動するため調整することが可能である。ここで、上述の椅子１０では、操作部４５が背凭れ２０の後ろ側下部であって、支持アーム５１，５２の相互間に配置してあるため、図７中の実線で示すように、着座者が無理のない姿勢で操作部４５を操作することができる。即ち、操作部が背枠２１の側枠部３１，３２に設けられた椅子１０の場合には、着座者が着座したまま操作しようとすると、図７中の二点鎖線で示すように、肩及び肘を大きく上方に上げる姿勢をとる必要があり、体勢的に無理がある。これに対して、上述の椅子１０によれば、操作部４５が背凭れ２０の中央部分において下方となる部位に設けてあるため、肩や肘を大きく上方に上げる姿勢をとることなく操作することが可能であり、腰部支持部材２３の高さ調整を容易に行うことができる。

【００２６】

しかも、上述の椅子１０によれば、操作部４５が、支持部本体４１の左右全幅に亘って下縁部を延長し、後方に向かって支持部２４から突出するように形成してあるため、この操作部４５の下方域、つまり下枠部３４の上面や下枠部３４と面材２２との隙間の部分に埃がたまることを防止することができる。

【００２７】

なお、本実施の形態では、肘掛け７，７は、背枠支持部６にのみ連結されているが、肘掛け７，７は、背凭れ２０にのみ連結されていてもよい。また、本実施の形態では、操作部４５を後方に向かって突出するように形成しているが、必ずしも突出させる必要はない。また、操作部４５を腰部支持部材２３の左右全幅に亘って形成しているが、腰部支持部材２３の中央部分のみに設けてもよいし、左右両端部のみに設けてもよい。

【００２８】

また、本実施の形態では、支持部２４を腰部支持部材２３と同じ幅に形成しているが、腰部支持部材２３よりも大きな幅を有するように構成してもよい。

【００２９】

さらに、本実施の形態においては、側枠部３１，３２とは別に一対の支持アーム５１，５２を有した支持部２４を例示しているが、本発明はこれに限定されない。たとえば、図８の変形例に示すように、背枠２１の側枠部３１，３２を腰部支持部材２３の支持部としてもよい。即ち、側枠部３１，３２、上枠部３３及び下枠部３４によって囲まれる開口６

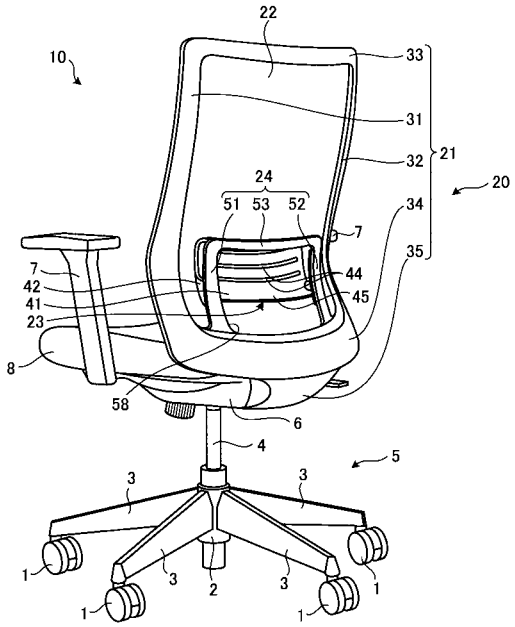
０に操作部４５が臨む状態で、両端部を介して腰部支持部材２３を側枠部３１，３２に支持させるようにしてもよい。この変形例においても、腰部支持部材２３の操作部４５が背凭れ２０の中央部において下方部に配置されるため、着座した状態でも肩や肘を大きく上方に上げる姿勢をとることなく操作部４５を操作することができ、無理な体勢を強いることなく腰部支持部材２３の高さを容易に調整することができる。

【符号の説明】

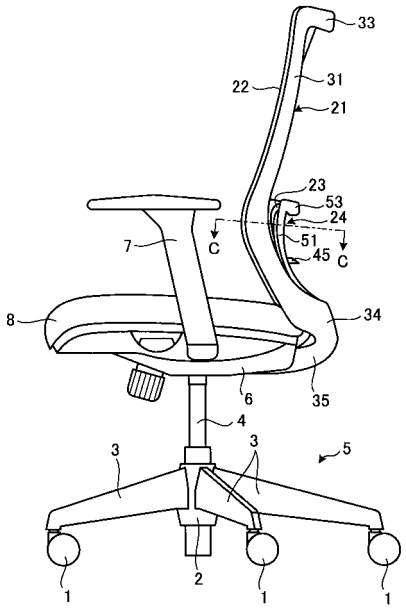
【００３０】

１　キャスタ
２　基部
３　脚体
４　脚柱
５　脚部
６　背枠支持部
８　クッション
１０　椅子
２０　背凭れ
２１　背枠
２２　面材
２３　腰部支持部材
２４　支持部
３１，３２　側枠部
３３　上枠部
３４　下枠部
３５　連結部
４１　腰部支持部材本体
４２，４３　摺動アーム
４４　スリット
４５　操作部
４６　突起部
４７　支え部
５１，５２　支持アーム
５３　支持アーム連結部
５４　係合部
５６　凹部
５８　開口
６０　開口

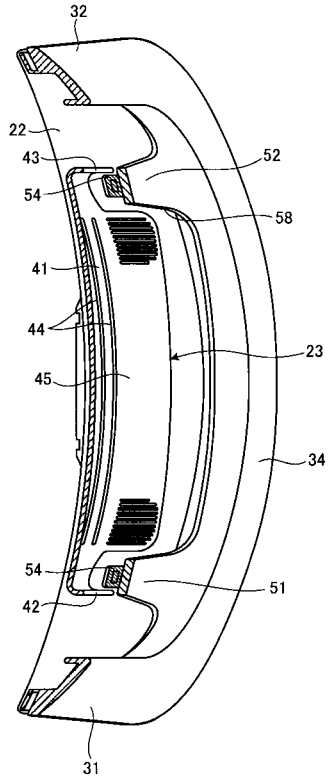
【図１】


10
22
33
31
32
21
20
24
51
53
52
7
34
35
44
45
42
41
23
8
58
6
4
5
3
1
2

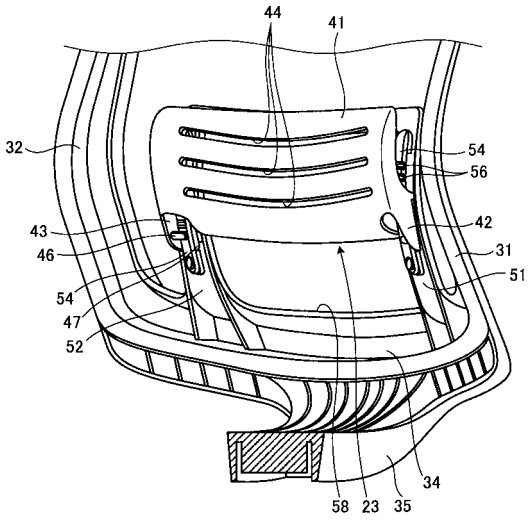
【図２】


33
22
31
21
23
53
24
51
45
C
7
8
34
6
35
4
5
3
1
2

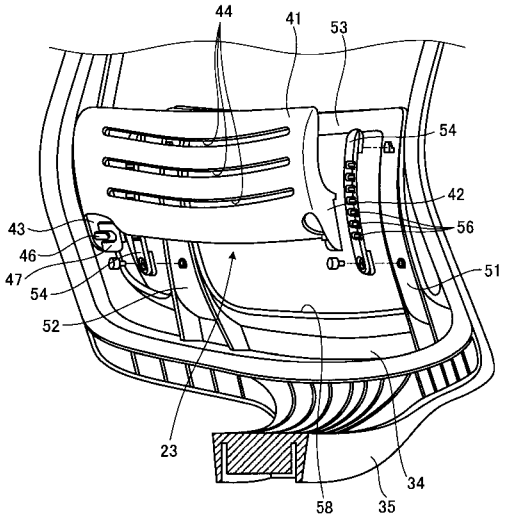
【図３】


32
22
43
52
54
58
41
44
23
45
34
54
51
42
31

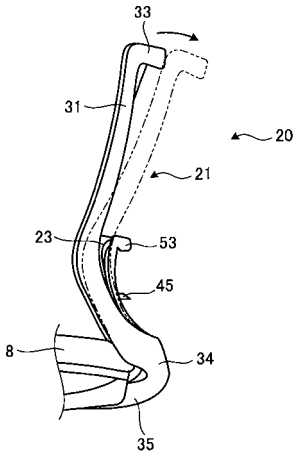
【図４】


44
41
32
54
56
43
42
46
31
51
54
47
52
34
58
23
35

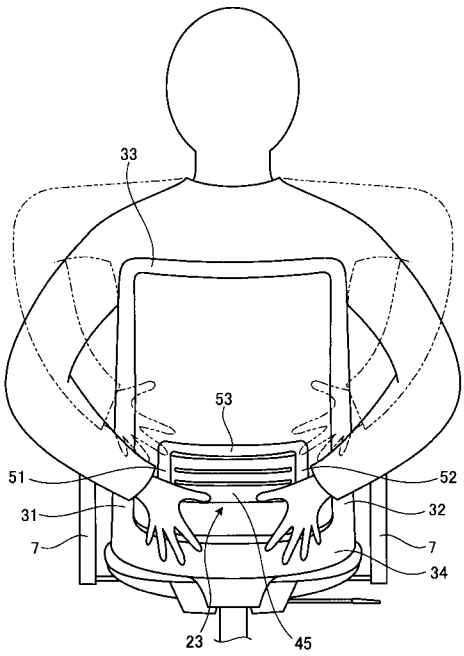
【図５】


44
41
53
54
42
56
43
46
47
54
51
52
23
58
35
34

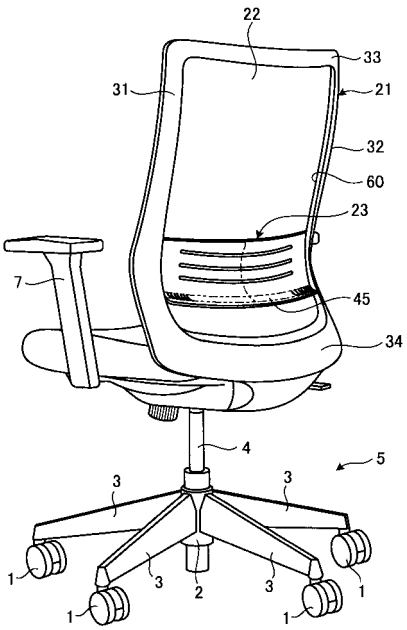
【図６】


33
31
20
21
23
53
45
8
34
35

【図７】


33
53
51
52
31
32
7
7
34
23
45

【図８】


22
33
31
21
32
60
23
7
45
34
4
5
3
3
1
3
2
3
1
1
1